

■千曲川は、立ヶ花付近で急に川幅がせまくなっているため、上流にあたる長野盆地北部では幾たびか洪水の被害を受けてきました。特に中野市の延徳田んぼ（低地）では洪水時にはなかなか水が引きませんでした。

■千曲川の堤防がなかった時代、延徳田んぼは水害常襲地帯でした。明治期には20尺以上の浸水が12回を数えました。



明治44年の延徳沖大洪水の写真

明治44年の延徳沖大洪水（大宮誠吉氏提供）

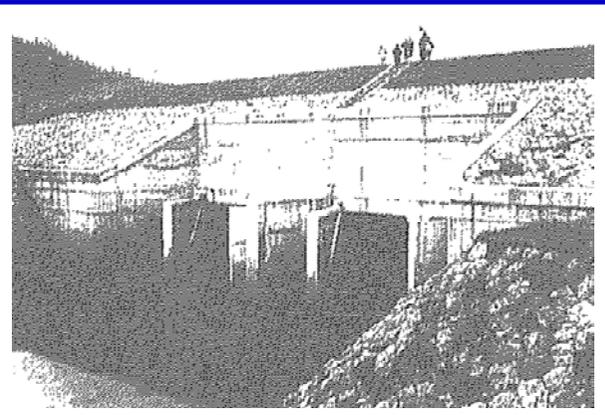
■延徳田んぼの住民は、先祖伝来心血を注いで水害とたたかい、抜本的治水対策の必要性を訴えてきました。その動きは、千曲川の全市町村による千曲川治水会（大正2年設立）に結びつく。住民の叫びが千曲川直轄改修事業の原動力となったといっても過言ではありません。

- 明治44年、延徳沖3ヶ村（現中野市、小布施町）の住民が延徳沖治水期成同盟会を設立。
- 大正7年、千曲川改修が長野県から国の直轄事業として引き継がれる。
- 大正10年、千曲川の氾濫を防ぐ小布施町の北岡堤防に着手される（昭和5年竣工）。
- 昭和7年、千曲川からの逆流氾濫を防ぐ、篠井川水門が竣工。
- 昭和16年、国による改修工事が完了。しかし、篠井川の内水氾濫は治まらなかったため、昭和17年から長野県が篠井川の改修事業に着手（昭和26年、部分竣工をもって中止）。
- 昭和20年、千曲川の増水逆流と篠井川の内水氾濫によって延徳田んぼは一面の水となる。他地域でも被害が甚大だったため、昭和23年に国による千曲川改修工事が再開された。
- 昭和32年、中野平土地改良区の設置認可。延徳田んぼの用排水路工事に着手。
- 昭和35年、長野県が篠井川改修・二ツ橋線工事に着手（昭和51年竣工）。
- 昭和36年、出水により延徳田んぼが再び一面の水となる。13日間冠水。  
中野市と小布施町で篠井川大規模排水事業促進期成同盟会を設置。
- 昭和41年、長野県が篠井川改修計画を改定（計画高水流量165m<sup>3</sup>/s）
- 昭和48年、篠井川排水機場の建設工事が始まる（昭和53年概成・5m<sup>3</sup>/sポンプ2台）。
- 昭和55年、中野市と小布施町で篠井川改修促進期成同盟会を組織。
- 昭和56年、長野県が殿橋～樋門間の篠井川の河床整正に着手。
- 昭和63年、篠井川樋門の老朽化と合流流量増加に対応するため、樋門の改築に着手（平成4年竣工）。
- 平成7年、出水による内水氾濫を受け、10m<sup>3</sup>/sポンプ1台を平成13年3月に増設。

# 篠井川水門と排水機場の設置

20m<sup>3</sup>/s暫定運用開始 //15周年//

- 昭和7年、千曲川からの逆流氾濫を防ぐ、篠井川水門が竣工しましたが、延徳田んぼの湛水被害は止みませんでした。建設省は、昭和40年から内水調査を開始し、過去の洪水実績から30m<sup>3</sup>/sのポンプ規模をもつ機場の建設を決めました。
- 昭和53年、篠井川排水機場が概成（10m<sup>3</sup>/s[5m<sup>3</sup>/sポンプ×2台]）。



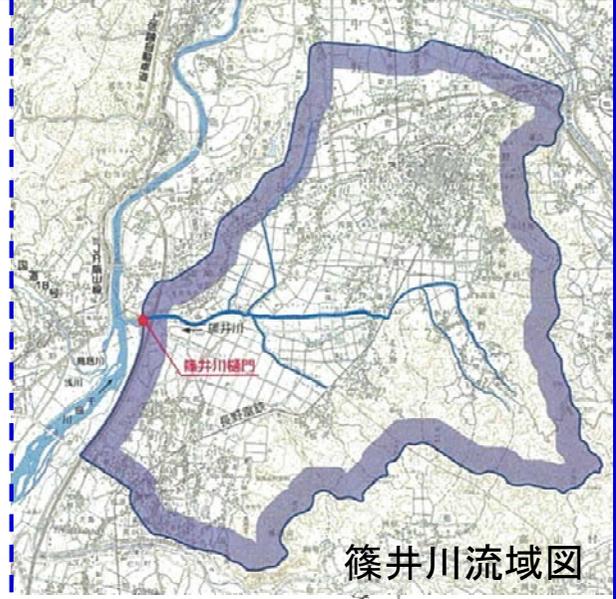
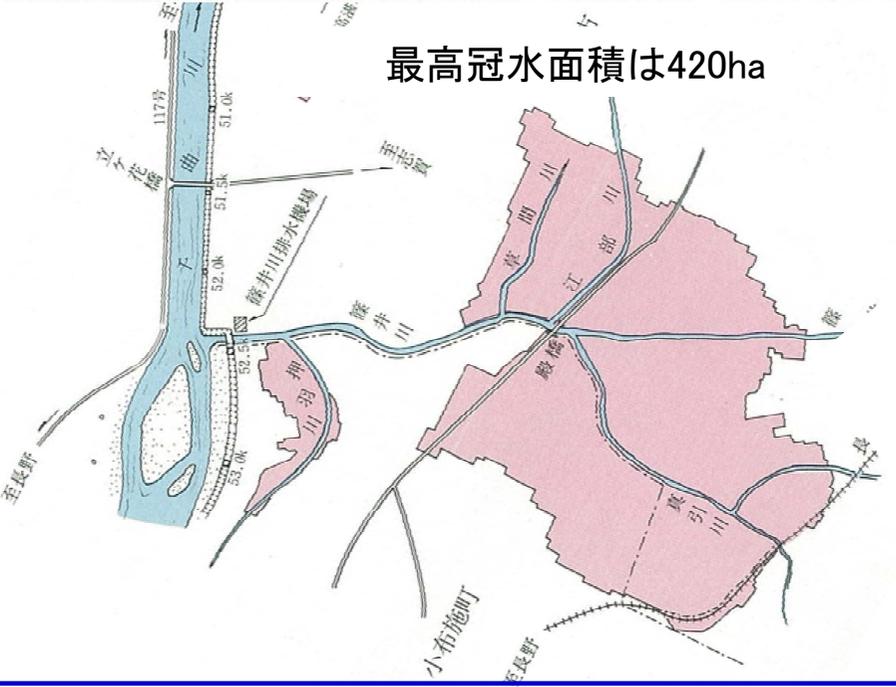
昭和7年竣工時の篠井川水門  
(出典: 中野市千曲川水系治水史)



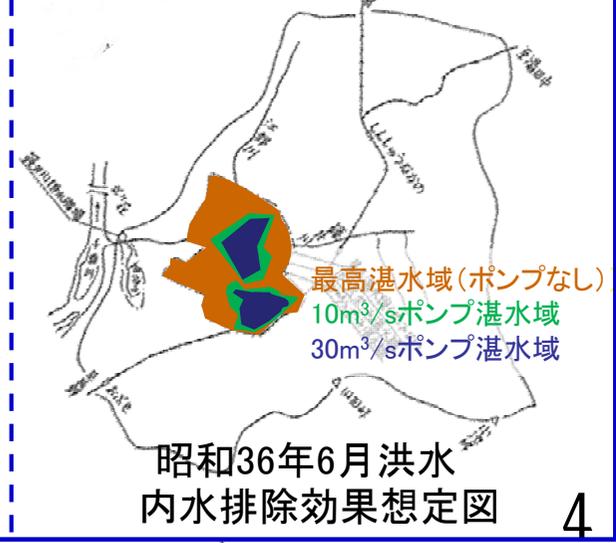
篠井川排水機場と篠井川水門  
※水門は昭和23年に電動スルースゲートに改築

## 昭和36年6月洪水(梅雨前線)での湛水状況

耕地も整備され、田植えも終わった延徳田んぼ約270haは、6月24日から冠水し、最高水深1.6mに達した。桜沢駅前堤防も決壊し、桜沢沖20haも水没。13日間冠水。



篠井川流域図



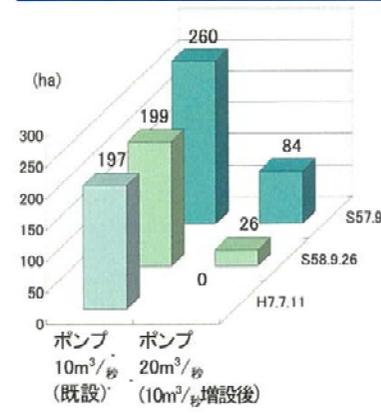
昭和36年6月洪水  
内水排除効果想定図

# 篠井川水門の改築と排水機場の増強

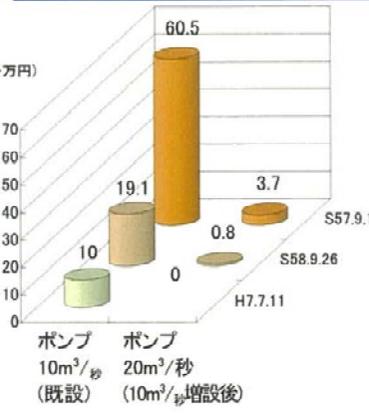
20m<sup>3</sup>/s暫定運用開始 //15周年//

- 昭和63年、樋門の老朽化と合流流量増加に対応するため、樋門の改築に着手し、平成4年に竣工しました。
- 平成13年、平成7年7月洪水による内水氾濫を受けて10m<sup>3</sup>/sポンプ1台を増設しました。

## 浸水面積の軽減効果



## 被害額の軽減効果



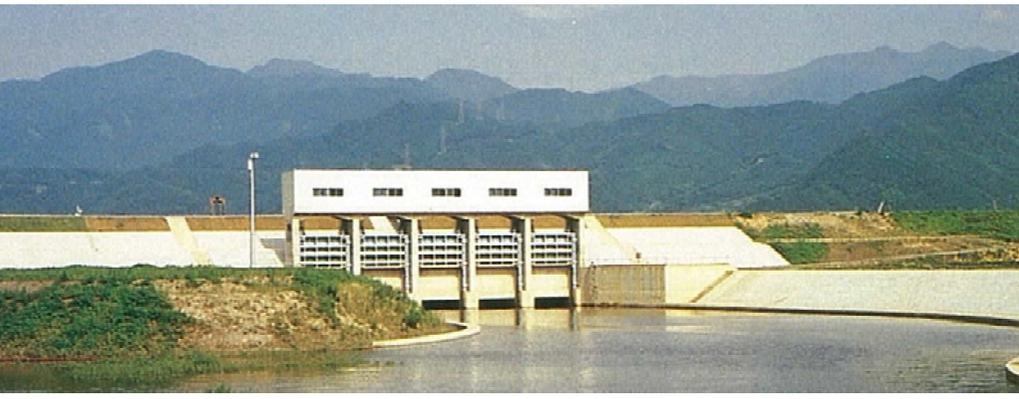
篠井川排水機場増設 (5m<sup>3</sup>/秒×2・10m<sup>3</sup>/秒×1)

① 中野市道の冠水状況 (H7.7.11 撮影)

② 国道403号の冠水状況 (H7.7.11 撮影)

凡例  
H7.7 浸水区域

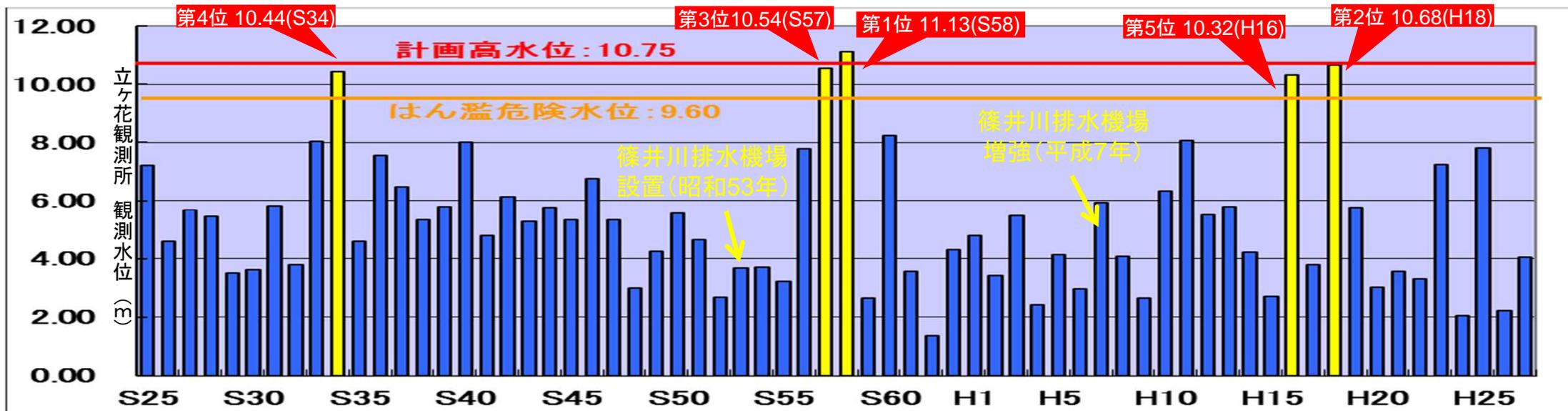
1/25,000



5m<sup>3</sup>/sポンプ2台は、平成25年度までに分解整備を実施。  
10m<sup>3</sup>/sポンプ1台は、今年度分解整備中。

# 篠井川排水機場の効果

20m3/s暫定運用開始 //15周年//



昭和53年概成以降、HWL近くに達する洪水が4回も発生。排水機場は、民生の安定、産業経済の発展に大きく寄与。



昭和57年(1982)9月洪水  
全半壊家屋16戸 死傷者37名(長野県内)  
浸水家屋(床上2,022戸、床下3,214戸)



昭和58年(1983)9月洪水  
全半壊家屋145戸 死者9名(長野県内)  
浸水家屋(床上3,906戸、床下6,975戸)



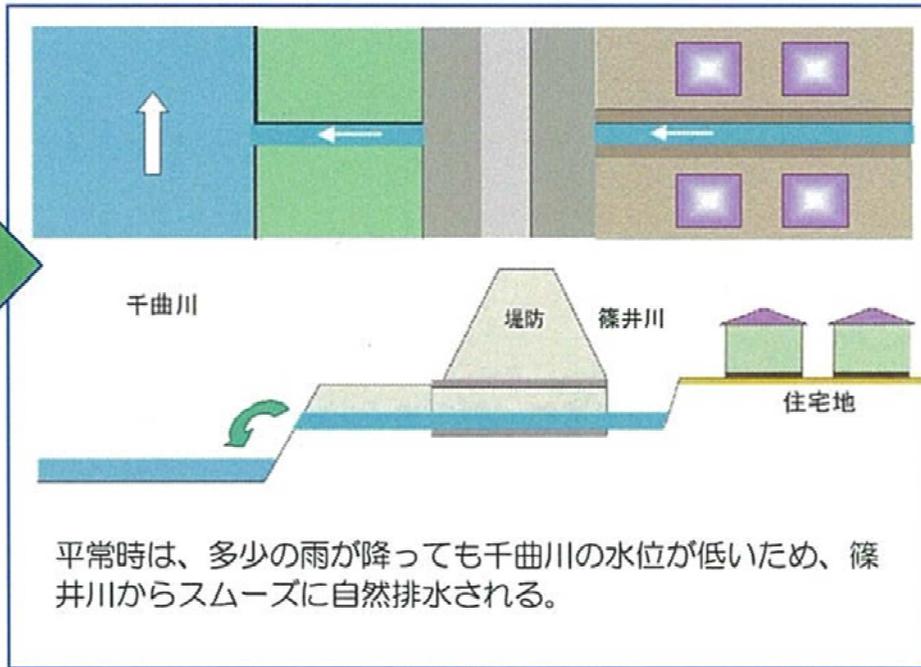
平成16年(2004)10月洪水  
全半壊3戸、床上浸水40戸、床下浸水630戸(長野県内)



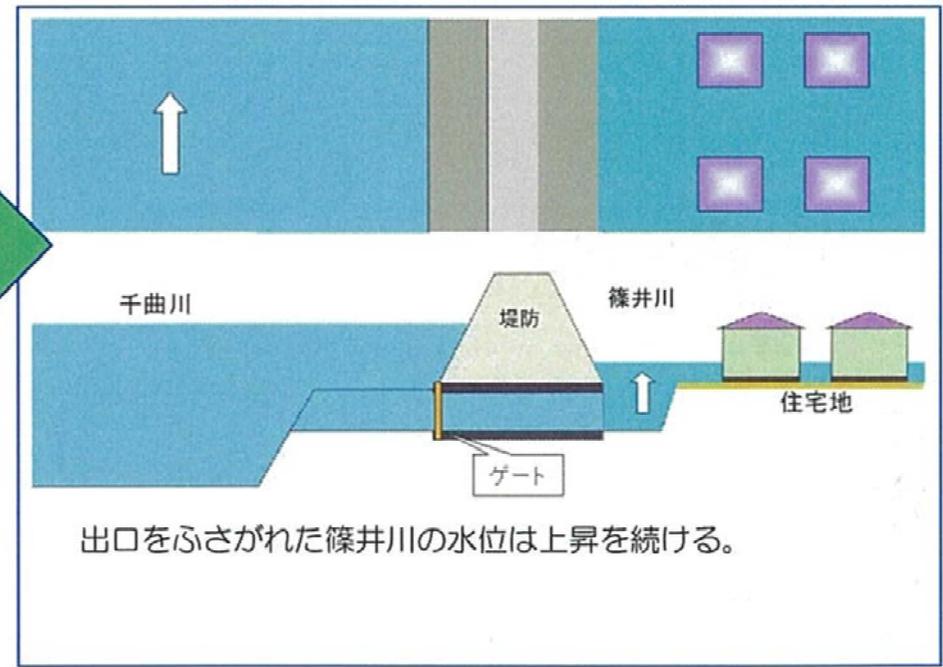
平成18年(2006)7月洪水  
床上浸水4戸、床下浸水62戸(長野県内)



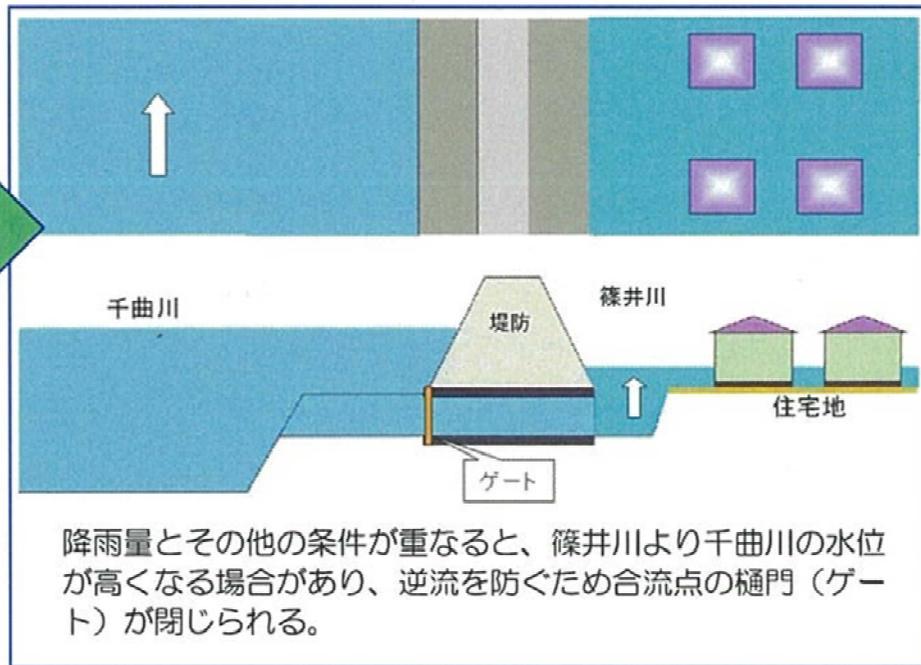
1



3



2



4

